

モモにおける幼果期の核障害が果形に及ぼす影響

福島県果樹試験場栽培部
平成16年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－モモ－生理障害
分類コード 04-02-21000000

2 担当者

相原隆志

3 要 旨

(1)
(2)
(3)

- (1) 2004年はモモ「あかつき」を中心として幼果の核障害(核頂部の亀裂)が多発した。満開後48日における核障害の発生率は81.8%で、うち程度の重いものは31.8%であった。原因は4月中旬～5月中旬における高温と断続的な降雨により、果肉や核の肥大に不均衡を生じたためと考えられた。
- (2) 幼果期の核障害と果頂部の形状について関連性を調査したところ、極端に早い時期には一定の傾向が見られなかったが、満開後48日の果実では果頂部の変形が著しいものは核障害の程度が重いことがわかった。
- (3) 以上のことから、満開後48日以降になると果頂部の形状によって核障害を判別することが可能と判断された。このため、「あかつき」において幼果期の核障害が多い場合には、仕上げ摘果を果頂部の変形が明らかになる満開後45日頃から実施する(硬核期前までに終了する)か、栽培面積が多い場合には仕上げ摘果で着果量をやや多めに確保しておき、硬核期終了後の修正摘果で着果量を調整することが望ましいと考えられた。

4 その他の資料等

なし